

ドイツ左翼党は “ ロシア制裁 ” の巻き添え被害を拒否する

People's World

September 14, 2022

<https://www.peoplesworld.org/article/hot-autumn-of-resistance-as-germans-suffer-from-sanctions-on-russia/>

BY C.J. ATKINS

People's World 編集長



(写真)左翼党によるライプツィヒ抗議デモ。横断幕には「物価を下げる、賃金を上げろ」と書かれている

ライプツィヒで約 5000 人、ベルリンで約 1000 人が 9 月 9 日、一連のキャンペーンの最初となる集會に結集した。

それはウクライナ戦争がドイツの労働者に与えた苦難に対する抵抗の「熱い秋」と名付けられる。

デモ参加者は、ガスや電気料金の上限設定、労働者階級に課されるガス料金の廃止、エネルギー産業の国有化などを要求した。

そして、ドイツ政府がロシアと行っている経済戦争に終止符を打つことをもとめた。

ドイツは他の EU 諸国とともに、ウクライナに侵攻したプーチン大統領を罰するために、ロシアのエネルギー販売に経済制裁を課している。

しかし、制裁はブーメラン効果を呼び、経済制裁はロシアよりもドイツの労働者にはるかに厳しい打撃を与えている。

2022 年夏のドイツのインフレ率は 7.6% となり、40 年ぶりの高水準となった。

問題の核心は何か。それはエネルギー価格だ。公式統計によると、エネルギーコストは 38% 上昇している。

ウクライナ戦争以前、ドイツは家庭を暖め、産業を動かす天然ガスの多くをロシアから調達していた。それは冷戦時代から何十年もそうだったのだ。

誤った制裁体制のツケ

2 月にロシア軍がウクライナ国境を越えた後、ドイツなど欧州各国はロシアのエネルギーから離脱する動きを開始した。

ロシア経済を窒息させれば、プーチンは戦車を呼び戻すだろうという考えからだ。

しかし、ロシアはインドや中国などの新しい顧客を見つけた。世界の石油・ガス価格は騰貴し、ロシアはこれまで以上に多くの富を手にするようになった。

一方、ドイツの労働者たちは、誤った制裁体制のツケを払わされることになった。

中欧では秋が深まりつつあり、その不満はますます高まっている。気温は下がり、怒りは高まっている。

ライブツィヒでは左翼党が抗議行動を行った。連邦議会議員のセーレン・ペルマンが "暑い秋の開幕" を告げた。ベルリンでは左翼連合が集会を持ち、緑の党本部前で抗議行動を行った。

緑の党のタカ派への変身

社会民主党のオラフ・ショルツ首相の連立政権に参加しながら、緑の党は平和主義、反戦のルーツを完全に放棄し、支配階級の中で最もタカ派的な声となったのである。(要するに「維新」に変身したわけだ)

緑の党から入閣したハベック副首相(経済・気候相兼務)とバールボック外相は、ドイツが長年続けてきた武器輸出禁止の方針を覆すよう、内閣の主要人物に働きかけた。

特にハーベックとバルボックは、キエフ政府に重装攻撃型兵器を送るよう、ショルツに圧力をかけた。それらはいずれも内閣の閣議で決まった。

パンと平和をもとめるベルリンのデモ

ベルリンのデモ隊は、ガスと電気料金の急激なインフレに的を絞って抗議した。

「もうたくさんだ。凍結 (freezing) より暖房 (Heating) だ。そしてパンと平和だ」

ドイツのエネルギー産業を公有化すること、制裁に見切りをつけることが、唯一現実的な道であると強調された。

主流メディアは、「反戦デモ参加者はプーチンの操り人形だ」と主張した。しかしデモ隊からは、ロシア軍のウクライナ攻撃に味方するような言葉は聞かれなかった。

その代わりに口をついたのは、連邦議会の権力者たちによる戦争への対応だった。

「この冬、家でこんなにブクブクの格好をする必要は本当はないはずですが、しかし、政府の紳士淑女たちは、彼らの間違った政策のために、私たちが凍えるかも知れないと言うのです」

「Naturfreunde Germany」の代表ヒクシュはベルリンの集会で語った。

ライブチヒでは、Die Linke の共同議長 Amira Mohamed Ali が次のように述べた。「安心して普通の生活を遅れるようにすることだ」

「労働運動ネットワーク」の Angelika Teweleit は、次のように述べた。

連邦政府は、家庭エネルギーへの補助金や公共交通機関の割引など、これまでに提供したインフレ緩和策で国民の怒りを抑えようとしている。

しかし、エネルギー会社を公的管理下に置くなど、国民の利益のためにもっと実質的なことをする気はない、と彼女は主張する。

「彼らはなによりも企業の利益を守りたいのだ」

Die Linke の Sevim Dagdelen 議員は、天然ガス追加料金計画の中止を要求した。

ドイツ政府は、一家庭に対して 1KW 時あたり 2.4 ユーロセントの追加料金を課すことを計画している。

この措置は一般家庭の暖房や調理をより高価にし、すでに採算線を確保している民間エネルギー企業の利益をさらに水増しすることになる。

10 月に施行されるこの課徴金は、高価な輸入ガスの代金を支払う電力会社に対する「直接的な補助金」として機能することになる。それは企業のために国民が金を出すのを強制されるということだ。

ディ・リンケの共同議長であるマルティン・シルデヴァンは、ライプチヒのデモ参加者に対し、次のように述べた。

カギは NATO を撤退させること

我々は、政府やメディアから「社会を分裂させている」、「民主主義を危険にさらしている」と非難されている。しかしそんな主張を受け入れるべきではない。

印象的だったのは、「NATO はウクライナから出て行け」「我々は君たちの利益のために凍結しているのではない」などのスローガンが、デモ参加者が持つプラカードに書かれていたことだ。

左翼とネオナチを同一視するメディア

主要メディア報道は、これらの要求をひっくるめて単純化している。

「暑い秋のデモ隊」は、ドイツのウクライナ戦争参加に反対するネオナチ政党「ドイツのための選択肢 (AfD) と同じだ」

ベルリン上院の左翼党代議員であるフェラット・コチャックは、こう反論した。

メディアは、「ここにはナチの居場所はない」と言い、左翼と極右の狙いについて人々に混乱を与えようとしている。それ(自由主義と独裁政治の対立図式)は、資本家支配階級の常套手段である。AfD をはじめとする極右団体は、こうした情報操作に乗じて、左翼の民衆の抗議行動を共倒れさせたり、乗っ取ったりしようとするのである。

ベルリンでの集会の周辺では、ネオナチと一緒に何度もデモをしていた政党 "Die Basis" とグループ "Freie Linke" の支持者のグループが集会に加わろうとしたが、リンケはそれを阻止した。

ライプチヒでは、左翼の集会と隣接して、右翼団体「フライ・ザクセン」が登録した集会に約 500 人が参加した。保安当局はこれを承認した。

こうしたナチスの妨害と当局の介入、メディアからの攻撃にもかかわらず左翼党の反撃は開始された。

左翼党のグレゴール・ギーシ党首は語った。

「最近の分裂騒動や選挙での敗北を経てようやく、我が党が再びこうしたキャンペーンを組織することが可能になったことを喜んでいる

(了)

